

日本の婦人

日本女子商業学校校長

嘉悦孝

こんにちは日本の婦人と申す事でお話をいたしてみます。

ある方はおっしゃいます。日本の婦人くらい可哀そうなものはない。朝から晩まで家内の雑事に追い使われ、まるで「おさんどん」に生れてきているようなものだ。子供のお守りは女が受け持ちで、さながら奴隷生活である。そして自らもそれに甘んじて、不思議とも思わない。

主張は抑圧せられ、自由は束縛せられ、人権などはまるで踏みにじられていて、いかにも日本婦人の日常生活は悲惨なものであつたかのように感じて、早くその境涯を脱したいとあせっていらつしやいますようでございます。

しかし、私はそうは思いませんのでございます。「おさんどん」の仕事はそんなに卑しい仕事でございませうか。子守りがそんなに気の毒な仕事でございませうか。私から申しますと、世にも貴重な人命を預っている台所の用事は、重大な任務でございませう。その考え一つで、弱者を強者とする事もでき、健康者を不健康者とする事もできます。

また、未来の国家有材の士を育み育てます子守りの仕事がそんなに卑しゅうございませうか、それは貴重な仕事でございませう。もし少しくらい悪い性質の子供もその熱心な教養は、善良なる子供とすることができませう。私どもは、こう考えてまいりました時に、私どもが女子であることが尊くて、且つその任の重きを思いまして大きに自重せねばならぬと感ずるのでございます。そして、この偉業を成しとげた暁に、そこに大いなる誇りと、大いなる手柄のある事を思いました時に、女子たる事を喜ぶのでございます。ここに日本の家族制度がその重任を果すのを必至であるのをおもひましては、日本の女子と生れた事を感謝せずにはいられないのでございます。

つい二、三日前、私は東京市長後藤子爵のご母堂の告別式に伺いました時に、いっそう

日本婦人の任務の重大で有望なる事の感を深くいたしました。凡そ、世の中に幸福者と申す幸福者もたくさんございますが、このご母堂に勝る方は多くはあるまいと私は思いました。おとしは、九十九歳という人間としてまずまず不足のないご長命、お子様は飛ぶ鳥落す東京市長というご重職にあらるる天下の有材、しかも有名な親孝行の後藤子爵でございまして、この方にかしらずかれて九十九年の長い年月を、のどかに幸福にお過ごしになり、三百万の東京市民におくられてのご長健は、あの日贈られた一千とも数うべき花環のそれにも勝る華やかさでも申したいような美しいご生涯であつたと思うのでございます。天下一千万の勇健男子の方々に、これだけの幸福を得た方がお幾たりございませうか。家庭生活のうらやましき、ことに老年の方々が大勢の子供にかしらずかれて、ああいう美しい生涯を送っていることは、まことにこれはうらやましい事でございますが、そうしてこの幸運をお勝ち得になりましたのは、皆この老ご母堂のお子守りのご労苦と、お台所のご勤務の結果であつたのでございます。この老ご母堂のご至境はたつぷり思うままにのびました。人心は非常の尊さを与えられました。これ等はおそらく外国婦人に求められる事ではないのだらうと思ひます。

よく外国の方々が仰せられますのに「日本のご老人は誠にお幸せである」という事を私はたびたび聞きました。それらを見ましても私共はどうぞ言論の人でなくって実行の人となつて、日本の女に与えられましたこの尊い天職を遺憾なく務め尽くしまして、そうして、このご母堂のような幸せな生涯を送りますと申す事は、決して女として私はこれは不幸な事ではない、誠に誇るべき事であると私は信じますのでございますからして、私は皆さんと共に、どこまでもこの日本婦人であるという事を忘れないで、日本婦人らしく美しく務めて行きたいと思ひます。